資料1－3（修正）

第3次築上町総合計画　基本構想（案）

別冊資料

まちの将来像（案）に関する資料について、基本構想案の修正や庁内での再検討を踏まえ、
修正したものです。

令和8年11月

1. 将来像に関する委員のご意見の整理
2. ご意見を踏まえた将来像の修正
3. 将来像（案）①～③

※ 本文中の下線部は、第5回審議会後の修正箇所です。

1. 将来像に関する委員のご意見の整理(将来像に盛り込みたい言葉・要素)

将来像に入れたい言葉や、目指すまちの姿としていただいたご意見です(「提案」は委員から示された将来像のフレーズ案)。

しごと・経済 (4名)

・第2次総合計画を振り返り、産業・所得・働く場・労働・経済・生産といった言葉を含めるべき
・経済の立て直しが急務。「富を生む」を入れて産業振興に力を入れることを宣言し、「しごと」「産業」を前面に(提案:限界を打ち破り富を生み地域で分かち合う共生のまち)
・人の力で、産業・所得・暮らし・幸福度・地域の価値を「上げる」
・今ある資源を生かし、町に帰ってきた人などを受け入れてできる仕事を

築上町らしさ・今ある資源 (5名)

・人・モノ・風土など、あらゆる資源の活用がイメージできる将来像に
・メタセの杜周辺の国有地や、閉校後の学校の有効利用
・町内にある県立高校を生かす
・「築く」「上げる」、小さな町だからこその可能性(提案:人が築き、地域を上げる。一人ひとりが活躍し続ける小さな町の大きな可能性)
・北九州市のように、まちの歴史や特徴が物語として見える、築上町らしい言葉に

資源の循環 (1名)

・住まい(空き家)・森林(森林クレジット)・農業(養分の循環)の循環。し尿の液肥のように、捨てて終わりでなく循環させることで活力を生む(提案:みんなの資源を循環させて住みよい町を創る)

子ども・子育て (3名)

・子どもの笑顔(子どもが笑顔で元気なら、町も明るくなる)
・子ども達が健やかに遊び、それを嬉しそうに眺めている親達が見える町(キーワード:子ども、健やか、明るい、未来)
・自然があり、教育と子育て環境が充実した町を前面に(提案:家族・子育ての町!築上町)

暮らしやすさ・定住 (4名)

・生活しやすいまち(移動しやすい、買い物や用事がしやすい、安心して暮らせる、住み心地がよい)
・暮らしやすいまち
・自分らしく暮らせるまち、ずっと住み続けていたいまち
・定住・受け入れを前面に。町内どこに住んでも安定した暮らし(提案:定住してください―受入れ万全!築上町)

主体・つながり (5名)

・みんなで育てる、みんなが主役、みんなでつくる築上町(対話を大切に)
・行政主導でなく町民・事業者・関係人口が主体。子ども・若者から高齢者まで、年齢に関係なく役割を持つ
・子供会・婦人会・青年団などの復活を支援し、コミュニティの再生を
・住民をはじめ関係するすべての人が主体的に関わり、誰も取り残さない
・町長・職員・住民が一緒に挑戦する

親しみやすさ (3名)

・ユーモアのあるキャッチコピーで馴染みやすく(キーワード:夢、叶える、成長、向上心、飛躍)
・「やってみよう!」チャレンジあふれ幸せめぐる築上町
・斬新で、ワクワクする言葉に

2. ご意見を踏まえた将来像の修正

原案の「挑戦」「循環」を生かしつつ、いただいたご意見を踏まえて、方向性の異なる3つの案に修正しました。

原案　みんなの挑戦が 幸福の好循環を生むまち 築上町

将来像(案)	ご意見を踏まえた修正の考え方
案① 一人ひとりの挑戦が 幸福の循環を生み 選ばれ続けるまち 築上町 ～活力ある「しごと」と安心の「暮らし」を共に築き上げる～	「みんなの挑戦」は町民に挑戦を求める印象がある、「一人一人」とすれば誰も取り残さない姿勢が伝わるとのご意見から、「一人ひとりの挑戦」としました。 「幸福」なら「好」は不要とのご意見から「幸福の循環」とし、「幸福」の定義が分からない、抽象的とのご意見を受けて、その中身を副題で活力ある「しごと」と安心の「暮らし」として示しました。
案② 一人ひとりの挑戦が しごとと暮らしの好循環を生み 選ばれ続けるまち 築上町	「幸福の好循環」からは施策がイメージできない、産業・所得・働く場といった言葉を含めるべき、「しごと」「産業」を前面に、とのご意見から、「幸福」を「しごとと暮らし」に置き換えました。 今ある資源を生かした挑戦が働く場を生み、働く場が生活しやすい暮らしを支える、という循環を表しています。
案③ 挑戦と循環で 豊かな暮らしを築き上げ 選ばれ続けるまち 築上町	液肥のように捨てて終わりでなく循環させることが本町の進む方向、築上町の独自性や「らしさ」が見えない、とのご意見から、本町ならではの「循環」を前面に出し、「築く」「上げる」のご提案を受けて町名にちなむ「築き上げ」としました。 「挑戦」「循環」は分かりやすいとのご意見を踏まえて両方を残し、これまでの「豊かな生活の場」を「豊かな暮らし」として引き継いでいます。

3. 将来像(案)①

まちの将来像(案)

一人ひとりの挑戦が 幸福の循環を生み 選ばれ続けるまち 築上町

～活力ある「しごと」と安心の「暮らし」を共に築き上げる～

将来像に込めた思い

マーカー:委員意見を反映した箇所

本町はこれまで“自然と歴史・文化を育む”―心と体の健康を求めた『豊かな生活の場』づくりを第1次・第2次総合計画の将来像に掲げ、20年間まちづくりに取り組んできました。海も山もある豊かな自然と歴史・文化は、次世代へつなぐこの町の財産です。一方で、人口減少は続き、暮らしを支える働く場や所得の確保が大きな課題となっています。

今、「縮小」する社会を前提としたまちづくりへの転換が求められるなか、必要なのは「これまでどおり」から一歩踏み出す勇気と新たな「挑戦」です。この将来像は、行政を始め、子どもから高齢者までの住民一人ひとり、事業者や団体など、まちに関わるあらゆる人々の挑戦が、町全体の幸福を生み出す原動力になることを表しています。行政は自らも挑戦し、誰一人取り残すことなく一人ひとりの挑戦を後押しします。

ここでいう「幸福」とは、活力ある「しごと」と安心の「暮らし」がそろい、一人ひとりが自分らしく暮らせていると実感できることです。海・山・農地、空き家など今ある資源を生かした挑戦が働く場と所得を生み、若い世代の定着や、町に戻る人・移り住む人の受け入れにつながります。人が住み続け、地域で支え合う力が保たれることで、町内のどこでも子育てや医療・福祉などの暮らしの安心が保たれ、子どもたちが健やかに遊ぶ姿を大人が笑顔で見守る光景が広がります。そうした安心と豊かさが、次の挑戦へとつながっていく―。この「幸福の循環」により、地域のつながりを育み、誰もが心豊かに住み続けられるまちを目指します。

将来像実現のため、住民と行政が「対話」を重ね、みんなでつくる一人ひとりが主役の共創のまちづくりを進めます。顔の見える小さな町だからこそ確かな変化につながる一人ひとりの挑戦を共に積み重ね、10年後は住民誰もが「このまちが好き」で町内外からも「選ばれ続けるまち」、「住民の笑顔と魅力にあふれるまち」築上町を築き上げます。

3. 将来像(案)②

まちの将来像(案)

一人ひとりの挑戦が しごとと暮らしの好循環を生み 選ばれ続けるまち 築上町

将来像に込めた思い

マーカー:委員意見を反映した箇所

本町はこれまで“自然と歴史・文化を育む”―心と体の健康を求めた『豊かな生活の場』づくりを第1次・第2次総合計画の将来像に掲げ、20年間まちづくりに取り組んできました。海も山もある豊かな自然と歴史・文化は、次世代へつなぐこの町の財産です。一方で、人口減少に歯止めをかけるには、暮らしの土台となる産業や働く場、所得の確保に、より踏み込んで取り組む必要があります。

今、「縮小」する社会を前提としたまちづくりへの転換が求められるなか、必要なのは「これまでどおり」から一歩踏み出す勇気と新たな「挑戦」です。行政は自ら率先して挑戦するとともに、住民一人ひとりや事業者、団体など、まちに関わる人々が踏み出す一歩を、誰も取り残すことなく後押しします。

一人ひとりの挑戦は、まず「しごと」を生みます。海・山・農地・森林や空き家など地域の資源を生かして産業を育て、地域で稼ぎ、分かち合う経済が働く場と所得を支え、若い世代の定着や、町に戻る人・移り住む人の受け入れにつながります。

人が住み続け、地域で支え合う力が保たれることで、子育てや医療・福祉、買い物や交通といった「暮らし」を支える環境を、町内のどこでも持続させていくことができます。子どもたちが健やかに遊び、それを大人が笑顔で見守る―そんな暮らしがあるからこそ、次の挑戦が生まれ、新たなしごとにつながります。この「しごと」と「暮らし」の好循環の中で、誰もが役割をもって活躍し、地域のつながりを育みながら、自分らしく住み続けられるまちを目指します。

将来像実現のため、住民と行政が「対話」を重ね、多様な主体と連携し、みんなでつくる一人ひとりが主役の共創のまちづくりを進めます。10年後は住民誰もが「このまちが好き」で町内外からも「選ばれ続けるまち」、「住民の笑顔と魅力にあふれるまち」築上町を築き上げます。

3. 将来像(案)③

まちの将来像(案)

挑戦と循環で 豊かな暮らしを築き上げ 選ばれ続けるまち 築上町

将来像に込めた思い

マーカー:委員意見を反映した箇所

本町はこれまで“自然と歴史・文化を育む”―心と体の健康を求めた『豊かな生活の場』づくりを第1次・第2次総合計画の将来像に掲げ、20年間まちづくりに取り組んできました。山から平野、海まで広がる豊かな自然と歴史・文化は、次世代へつなぐこの町の財産です。一方で、人口減少は続き、豊かな生活を支える働く場や所得をいかに生み出すかが大きな課題となっています。

今、「縮小」する社会を前提としたまちづくりが求められるなか、必要なのは「これまでどおり」から一歩踏み出す「挑戦」です。それは、海・山・農地・森林、空き家、歴史文化、そして人といった今ある資源を生かし切ることです。行政は自ら率先して挑戦し、住民一人ひとりや事業者、団体の挑戦を後押しします。

そして、その挑戦を「循環」につなげます。し尿等から液肥をつくり農地に還す資源循環型農業のように、「使って終わり」ではなく「めぐらせて価値を生む」ことは本町ならではの強みです。食や森林、住まいの循環が働く場と所得につながり、地域で稼ぎ、分かち合う経済をつくります。また、地域で育った子どもがやがて担い手となり、高齢者も経験を生かして地域を支える―世代を超えた支え合いも、地域のつながりを育む力になります。

こうして生まれたしごとの活力が、これまで大切にしてきた「豊かな生活の場」を支えます。町内のどこに住んでも安心して子育てができ、子どもたちが健やかに遊ぶ姿を大人が笑顔で見守り、誰もが健康で自分らしく暮らせる―そんな豊かな暮らしを、一つ一つ積み重ねながら自分たちの手で築き上げていきます。

将来像実現のため、住民と行政が「対話」を重ね、みんなでつくる一人ひとりが主役の共創のまちづくりを進めます。10年後は住民誰もが「このまちが好き」で町内外からも「選ばれ続けるまち」、「住民の笑顔と魅力にあふれるまち」築上町をつくります。